




プログラム名		虫さんのステキなお家をつくろう							
対象年齢		年長（5～6歳）							
ねらい	メッセージ	野原にはいろいろな虫がいて、それぞれの住み家で暮らしていることに気づこう							
	発見・体験できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな虫が、その特徴に合った場所で生息していることに気づく</li> <li>・植物などの自然物は、ふかふか、ざらざら等いろいろな感触を持っていることを知る</li> </ul>							
参加者のめやす		幼児 20人 / 支援者 4人							
実施時間		30分							
フィールド									
		森・社寺林公園	山・里	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園		
実施可能時期									
自然を感じるためのヒント									
時間		活動				配慮・アドバイス アレンジ			
5分		今日の遊びについて話を聞く				野原にあるいろいろな植物を使うように助言しましょう。 イメージしやすいように、自分達の生活や家を思い出せるような声かけをしましょう。			
10分		虫のお家をつくる				いろいろな自然物の特性を活かして、家や食べ物をつくっている様子を認めましょう。			
									
		今回はプラスチックのパン箱の上に新聞紙を敷き、その上で作りました				自分達の快適なお家をイメージし、その発展として虫が快適と感じるお家を作りましょう。			

時間	活動	配慮・アドバイス アレンジ
5分	<p>でき上がったお家についてグループごとに発表する</p>  <p>インタビューのように聞いていきます</p>	<p>虫が気持ちよく暮らせるように住み家がつくれたことを認めましょう。 工夫したり、想像してつくったところを聞き出し、共感しながら話を聞きましょう。</p> <p>何かをマイクに見立ててインタビューをするなど、工夫をして話を引き出します。</p>
7分	<p>でき上がった家を、虫の住みやすい場所に置きに行く</p> 	<p>木陰がいいのか、草原がいいのか考えながら、見つけた虫がいたような環境に置く必要があります。</p> <p>パン箱を使わずに自然物だけでお家を作ると、置いたお家を残しておくことができ、継続した観察ができます。</p>
3分	<p>今日の遊びを振り返る</p> 	<p>小さな生き物も自分達と同じように生命があり、生活していることを知らせましょう。</p>
<p><b>【異年齢への対応】</b>          年少：子ども達が虫になりきるような、なりきり遊びをするとおもしろいでしょう。          ：虫の暮らしている場所を全員で見に行きましょう。          ：虫が住んでいる家はどこにあるか、みんなで考えましょう          年中：箱を小さくし、部屋に必要なものを提示してそれになりうるものを探してくるような家作りなら可能でしょう。</p>		
<p><b>【園や家庭に帰ってから】</b>          自宅近くで、虫にとって住みやすい環境を探してみましょう。          虫にとって快適な環境を作るために何ができるか、家庭で考えて実践しましょう。          園の中で、紙や積み木を使って家を作ります。その中で虫になったつもりでなりきり遊びをしましょう。</p>		
<p>準備物・教材等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 虫ケース 4個</li> <li>・ 移植ごて(スコップ) 8~10本</li> <li>・ パン箱 4個</li> <li>* グループがわかるように一つ一つにマークをつけておく (れもん、あおりんご、ばなな、さくらんぼ)</li> </ul>	

